

# Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 阿部 信行 編集責任者 足立 聡 印刷所 東京印刷(株)

## 2月例会報告

## 地域の未来を語る

# パネルディスカッション開催!

2月15日(木)地域ビジョン委員会の担当によって開催された2月例会。開会に先立ち、井田OBのご逝去を悼み出席者全員によって黙祷を捧げ、続いて阿部会長が、「故勝部OBご夫人からの寄附金を基に、勝部OBメモリアルとして西部青年中央会独自でインターネットにホームページを開設し会員フォーラムの場として活用して行きます。」と紹介された。

今月は、「地域の未来を語る」という表題で、当西部青年中央会のOBでもある(株)東亜青果代表取締役の秦野一憲氏と、(株)テクネ研究所代表取締役の長谷川泰二氏をお迎えし、地域ビジョン委員会の長谷川義明委員長のコーディネートのもと、われわれのビジネスの場、又、生活の場としての山陰をどのようにして行きたいのか、どのようにしていくべきなのかという事について、あらゆる角度から議論を醸し出して頂きました。

まず、秦野氏は平成2年度に西部青年中央会の会長として「どうする山陰」をテーマに西部青年中央会をリードしてこられた事などをベースにして、山陰という全国的にも人口の少ない地域で、広く商圈をとらえて考える必要がある中で、一市、一町村の行政単位の枠内で物事をとらえるのではなく、地域同士の連携を軸に人口集積があると云える中海圏という圏域で広く考えていく必要がある事について口火を切って話して頂きました。

では、なぜ中海圏に拘るのか、その理由について長谷川氏より、県境を越えた拠点都市づくりについて米子、境、安来、松江の4市で調査研究をされ、その結果をまとめてこられた中から、身近な例を出してお話し頂きました。たとえば、日常使用している通信の利用状況で考えても、米子と鳥取の間でのNTT回線利用よりも、米子と安来や松江でのNTT回線利用の方が数倍多い事を取り上げられ、日常的に県境や行政枠を超えている事



をお話頂き、また、生活者、消費者のレベルで考えても、県境というボーダー意識をあまり持たない中で生活している事を説明され、すでに中海圏としての人口集積地域を形成している事の証である事を話されました。

しかし、中海圏域を一つの人口集積地域として一くくりとして考えて行く時に、県境を超えて情報が相互に入ってこない点がネックになったり、県境を跨いでハード面での整備を考えると国のレベルでないと解決し得なかったり、行政間の障壁がある事を考えざるを得ない点を挙げられ、そこを解決するためにも、市民が登場する社会をつかっていくコンセンサス作りが必要であるし、行政の力だけで新しい地域を作り上げていくのではなく、21世紀に向けて、まったく新しいビジョンを持った、地域に自信の持てる広域都市をつくる事を考えて行く事が必要不可欠であると同時に、ビジネスをするわれわれがもっと大きく行政に提言して行くべきであると期待感を持って話されました。

今、一つの新しいビジョンにより広域都市づくりという構想ができましたが、言い換えれば、合併による新しい都市づくりといえるでしょう。そこで合併が具現化したと想定して、広域都市としての展望は何かと考えがちですが、その前に合併によって、福祉問題はどうか、都市基盤はどうか、地域の独自性をどのように残して行くか等を具体的に考える事が優先されます。つまり、生活の質の満足度をシフトして考えるのではなく、市民の立場で地域について議論していく場所づくりが必要となってくる事を話されました。

【裏面へつづく】

たとえば、ジャパンエキスポについても、若手経済人が積極的に参加する姿勢を示さないと、何を成功させるのかが不透明に見えると思います。だからこそ、市民会議等をたちあげて、将来に向けての地域のためのノウハウを考える等その方法は自らが行動を起こしていかなければ解決して行かないものだと思います。一つ为例としてご紹介されたのは、東北で開催される予定のジャパンエキスポは、仙台商工会議所と河北新報社という民間が主導で開催計画をたてている事で、市民レベルで次世代



につなげる博覧会の開催として期待されているところのようです。

また、本庄工区のように県境に跨る広大な面積の土地利用についてもコンセンサスの食い違いや、県境のもたらず障壁を解決していくにも、中海圏を軸にビジネスをする青年経済人が英知・友愛・団結のもと、新しい都市を築いていくコンセンサスづくりに力を注ぎ、行政を牽引するくらいの馬力が欲しいものですと激励され閉会しました。



広報委員会/山中

## トライアスロン部長の抱負



マラソン部長

景 幹 雄

歴代のマラソン部長様の後任として、今回第16回大会のマラソン部長を仰せつかり、大役ですが引き受けさせていただきます。

第15回記念大会同様、選手600名参加。

但し、今回変更事項が多々あります。コース変更、距離変更、エードステーション変更等、前回と異なる為事前に再々にわたり打合せが必要になって参ります。例年たずさわっていましたが、直接責任のポストに就くとすると、改めて事の重大さを感じています。

皆様の御指導、御協力なくして、事故なく無事達成する事は出来ません。1人の力よりは2人の力、2人の力よりは3人の力。多数の力を持ってすれば600名の選手全員を無事にゴール迄!! と、それを願っています。



ボランティア部長

畑 中 経 之

皆生トライアスロンは、大勢のボランティアの皆さんの活動が大きな役割を果たして来たといえます。ボランティア部は、そのボランティアの皆さんのとりまとめ役として又、ボランティアと大会本部とのつなぎ役として重要な位置づけであると思います。その重要な役割を認識して、歴代のボランティア部の方が築かれた事を確実に引き継ぎながら、今年の第16回大会も万全の準備のもとで迎え、大成できますように努力したいと思います。

ボランティア部としてご協力いただく会員の皆様や、各エードステーションでボランティアとして活動いただく会員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。そして、参加されます選手の皆さんに暖かい声援をお願いします。

## 第1回各地区会長副会長会

去る2月2日に第1回の県青年中央会各地区会長副会長の集いが鳥取の厚生年金会館に於いて開催された。

当日は今年の冬を象徴するかの様な大雪で、JRも30分以上遅れで鳥取駅に着く状態だった。

西部からは阿部会長を始め、松本、森尾、秋田の3名の副会長と私の計5名が出席した。

湯谷県会長の挨拶のあと、各地区会長がそれぞれの会の活動状況や悩み等を話し早速議事に入った。内容としては、各地区での中央会の位置(存在、認知度、メリット等)、例会、委員会など運営上の方針及び問題点、又、会員数減

少問題への取り組み、入会年齢、卒業年齢について等、各地区共通の悩みも多くあり2時間という時間があっという間に過ぎていった非常に有意義な会となった。

西部の運営に対して他地区の会長よりの質問も相次ぎ、今年度の委員会の会費の分配方法などは他地区では関心を持って受け止めている様子だった。その他、各項目に本当に沢山の意見が出たため、各地区で持ち帰りこれからの会の運営に役立てようという意気込みが感じられる会であった様に思う。

(by 角田)

# 2 月 度 委 員 会 報 告

## 政治行政、社会文化、経済委員会 合同委員会

平成8年2月6日(火) 於：米子国際ホテル  
出席者/政治行政：16名 社会文化：13名  
経済：8名

内 容/政治行政、社会文化、経済の三委員会による合同委員会行う。

2月6日(火)三委員会による合同委員会は米子国際ホテルにおいて鳥取県企画部企画課の木村義人主事を迎えて「鳥取県の地域情報化への取り組み状況」についてお話をうかがった。講演内容は

- ①鳥取県地域情報化計画の策定(今後のビジョンの提示と計画)
- ②国の地域情報化構想の指定状況(郵政省のテレトピア構想など)
- ③情報化基盤の整備状況(CATV、防災行政無線など)
- ④個別システムの取組状況(キャプテンを利用した情報提供、図書館情報処理システム、教育情報ネットワークシステムなど)
- ⑤その他(映像情報発信事業、インターネットによる情報発信事業など)等々の説明で県が各種の情報化施策を推進していることをうかがい我々の知らなかった事を勉強させてもらった有意義な委員会であった。

## 地域ビジョン委員会

平成8年2月8日(木) 於：米子食品会館  
出席者/14名  
内 容/2月担当例会の打ち合わせ

## 経営投資委員会

平成8年2月7日(水) 於：米子食品会館  
出席者/12名  
講 師/境港市企画交流係長 伊達憲太郎氏  
演 題/環日本海交流の現状

伊達憲太郎。境港市企画交流係長。日本海交流時代を支える柱の一人である。

行政の中であって、対岸諸国の人々との交流を通じ、ネットワークを広げている。

その交流を通じ感じ取ってこられた、対岸諸国の国民性、民族性など、洞察力あるお話を拝聴した。

また、海外交流は結局のところ人のネットワークであり、そういう意味では境港市は他の行政に一步も二歩も先んじている。フランクな質疑応答により、日頃聞けない興味深

いお話を聞くことができた。

## 情報メディア委員会

平成8年2月21日(水) 於：(株)サンメディア会議室  
出席者/10名

講 師/(株)サンメディア 神崎 久氏

内 容/ 青年中央会のホームページ開設についての講義をうかがった。

実例をもとにしたHTMLの書き方及びスキャナーによる画像の取り込み方フォトショップによる画像の修正や合成の仕方など。大変参考になった。

次に中央会のホームページ立ち上げに向かったの試作を行った。出来ばえを見て各人ホームページ自前立ち上げに向かったかなりの自信がついた?

## 広報委員会

平成8年2月8日(木) 於：米子食品会館  
出席者/17名

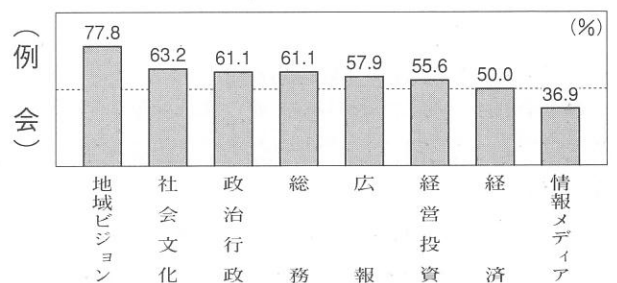
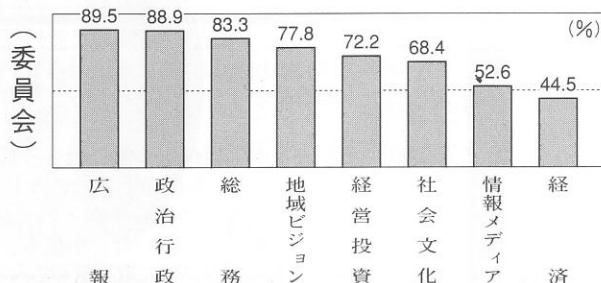
- 内 容/1. 2月役員会報告  
2. 3月ハンサム企画打合せ  
3. インターネットホームページ開設に当たって、インターネットとはと言う議題で畑中副委員長より講義を受け、大いに盛り上がった。

## 総務委員会

平成8年2月19日(月) 於：米子食品会館  
出席者/15名

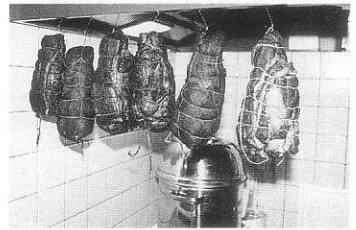
- 内 容/1. 綱領唱和  
2. 委員長挨拶  
3. 役員会報告  
4. 議事
- ①新入会員(2名)承認の件
  - ②4月リクレーション例会の打ち合せ  
日時：4月21日(日)(予定)  
場所：検討中  
主旨：会員及び家族参加で相互の親睦を深める例会とする  
内容：フィールドアスレチックと家族参加のゲーム大会
  - ③高知研修旅行の件
  - ④ソウル研修旅行の件

## 例会・委員会 出席状況

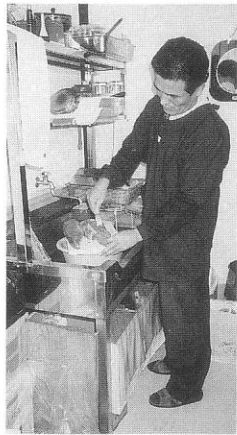


# 突撃同行レポート

## 「けむり編」



今回は凝り性で有名な小原会員に登場していただきました。なんと“燻製”であります。ポマードたっぷりのオールバックで調理している姿を想像するだけで楽しくなります。3年前にアウトドアに興味を持ち始めた頃に、燻製と出会ったそうです。処女作品は、鳥だったようですが、煙の中につこむだけでは



はっきり言ってまずかったとのこと。しかしこの失敗が、又彼を大きくしてしまいました。

凝り性の小原氏、それから20冊以上の専門書を買集め読みあさった。オールバック頭の中は、あふれんばかりの煙の知識。そういえば時々耳の穴から煙があふれている。今まで作った燻製は、サンマ、鶏肉、牛レバー、イカ等。特にお気に入りのは牛タン。ワイン、ビールに最高に合うし、周囲の評判もすこぶる良い。自画自賛だが最高に美味なのだ。ここで簡単に牛タンの燻製作りを紹介してもらった。

①調理 ②塩漬け(一昼夜) ③ソミ

ュール液漬け 手作りのソミュール液(赤ワイン、タマネギ、ニンニク等に数十種のスパイスを加えた不思議な液体)に1週間程度浸し、熟成させる。

④塩抜き(流水で5時間程度) ⑤ボイル(75~80度Cで1時間半程度)ポイントは温度調節。低いと生、高いと縮んでしまう。⑥水切り風乾(戸外にて半日) ⑦燻製(燻製器でサクラとヒッコリーを程良くブレンドした燻材の煙を、60~70度Cで2~3時間あててやる) ⑧仕上げ風乾(煙のがさをマイルドにするため、一昼夜空気にさらす)

以上全工程、2週間をかけた牛タン6本が完成した。「これ本当に小原さんが作ったの?」とんでもなく美味、なんと言うか、小原さんの愛の味。今まで作った牛タン60本、一昨年の10月頃より、本格的に制作。今では毎月1回は必ず燻製を作る。以前、妻の本音に御登場いただいた奥様も、麻薬が入っている様な不思議な味、食べだしたら止まらないと絶賛する。

燻製の芳醇な香りと、あの特有な風味が小原氏を快感に導き入れるのだろう。これを本人は“道楽”という。美味しい牛タン、ありがとうございました。 By 安本

## 聞いてごしない Part 9

### 「冬の休日」

2月の連休に、今年何回目かのスキーを楽しむ為、大山へ向かった。前日の雪がウソのような快晴のスキー日和である。

ゴルフへ行く時の朝のように、二日酔いも諸共せず、早朝から一路大山へ向けて出発した。

だが、ちょっと様子がおかしい。朝7時過ぎだというのにスキーを積んで降りて来る車が4~5台続く。いやな予感がして来た。去年の同じ時期、駐車場が満車でアスレチックの前で止められ奥大山まで行った苦い経験がある。その時は、奥大山で滑ることは出来たけど、帰る時になって車のキーを紛失してしまい、下の御机までスキーをかついで歩いた思い出がある。あの日の事が頭をよぎり、1台、2台と降りて来る車と行きかう度に不安がつつてきた。くしくも同行しているメンバーは去年と同じだったのである。予感は当たった。横原駐車場には、ざりざりセーフで駐車出来たものの、連休の好天気で超満員。

「満車でこれ以上駐車出来ません」という冷やかなアナウンスの声を後ろに聞いてホッとしたのはつかの間の事。シャトルバスの順番を待つ長い列を見ると、大山寺まで2時間はかかりそうな感じだった。しかし、一面に広がる白銀の世界を見ると胸が高鳴り、好天も手伝って、行列の後尾に並ぶのも苦にはならなかった。10分、30分、1時間、待てどくらせどバスは来ない。そのうちあの冷やかな声で途中不法駐車がありバスの運行を邪魔している主旨のアナウンスが流れた。

待つこと数時間。時計は10時をまわっていた。

あとバス2台来れば、ようやく我々が乗れる順番が来る。気を取り直してそれまで吸い続けたタバコもポケットにしまい乗る準備をした。

ところが、さっき出発したバスが駐車場の出口で立ち往生しているのである。近くに行ってみれば、観光バスがスリップし道をふさいだまま動くに動けない状態であった。この観光バスを動かすので1時間かかるとのこと。

“ああ、バカらしい” “帰ろうぜ!”

西日本随一のスキー場ではないか。近県はもとより、九州、四国方面からも多くの人が訪れているのに何とかして欲しい。

フード付きリフトに変わり、国際スキー場からの大パノラマを期待していたのに、今度は平日にゆっくり滑りに来ようとなぐさめて、まだいつ着くか分からない長い列を右に見て、大山を後にした。(不老林)

3月特別例会オープン例会

日時	3月13日(水)	受付	18:30~
場所	米子国際ホテル	開始	19:00~
担当	役員		
講師	衣笠祥雄氏(野球解説者)		
演題	私の野球人生		

※出席の有無を3月11日までに返信ハガキにてご回示下さい。

3月役員会報告

3月定例役員会が3月1日(金)、米子食品会館に於いて開催された。当日の主な議題は、次の通り。

- (1) 次年度会長推薦の件
- (2) 3、4月例会開催の件
- (3) 収支見込みの件
- (4) その他

※尚、詳細については各委員長までご照会下さい。

新入会員カルテ

氏名: 権代 篤志  
ごんたい あつし  
 企業名: (有)アスカアソシエイツ  
 血液型: O



症状及び所見:

この度新しく入会させて頂きました権代です。事業を始めた時から色々な方に入会を薦められておりましたが、そのうちに……と言っている間に5年が過ぎてしまいました。年齢も40才になってしまいました。限られた年数ですが、新たな出会いの中で、皆様に色々とお指導いただきながら、青年中央会に対して何が出来たのか、どんなお役に立つ事が出来るのか考えながら頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

編集後記

ウインドウズ'95上陸! マスコミに煽られパソコンを購入したが、入門編のビデオを見たきり、それっきりであった。ところが今年になって我が青年中央会もインターネットなるものにホームページを開設するという。先日の広報委員会で畑中会員よりインターネット等についてわかりやすく説明して頂いた。小生も、これを契機にひとつ本腰をいれてパソコンに取り組んでみるとするか。